

自分のペースを大事にして
農業と向き合っています。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

幼い頃、朝から晩まで働く父や母の姿を見ていて農業の大変さを感じていました。後を継ぐのは自分しかいないと思い高校生になってから家の手伝いをするようになりました。高校卒業後は、拓殖大学北海道短期大学に進学し、農業の知識を身に付け、就農しました。

就農当初はタマネギの定植を二列飛ばして植えたり、タマネギの選果の最中に機械を詰まらせたりと失敗の連続でした。



2 青年部活動について



青年部栗沢支部も参加した
くりさわ農業祭

農業を始めて2年が経過した頃に青年部に入りました。加入当初は他支部はもちろん、栗沢支部にも知り合いが3人しかいなかったため、やっていけるのか不安でしたが、同級生や年の近い盟友も多かったため、自然と横のつながりが増えていきました。地域の垣根を超え、農業技術や研修会などさまざまな事業に参加したことで自分の成長を感じることができています。

今年も栗沢支部長と本部役員を務めているため多忙な毎日ですが、充実した事業運営を行うために日々奮闘しています。

3 仕事をやるうえで大切にしていること

農業は自然相手なので、天候の変化に対応できるような常に心掛けています。また、激しく変化する天候は作物だけではなく身体にも影響を及ぼすので身体を壊さないように体調管理にも気を付けるようにしています。そして、農業には危険を伴うこともあり、集中力を保つことも必要だと考えています。そういったこともあり、たまにですがヨガをやってストレス解消や体力増進、精神的にリラクゼーションをすることで、心と身体のバランスを整えるようにしています。これからの自分のペースを大事にして余裕を持って農作業を進めていこうと思います。



人物 memo

岩見沢市栗沢町自協
高柳 京祐 さん(33歳)

父の賢司さん、母の克代さんと家族3人で約26haの農地にタマネギや麦、大豆を栽培。農家の長男に育ち短期大学を卒業後、すぐに農業に従事。現在は青年部栗沢支部長を務め、青年部で町内のイベントにも参加をして地域を盛り上げています。